

京都市基本計画審議会 第1回まちづくり部会
摘 録

日 時：平成21年11月2日（月）9：30～11：30

場 所：京都市役所消防庁舎 7階 作戦室

出席者：

おおしま さちこ
大島 祥子 スーク創生事務所代表，楽洛まちぶら会事務局

かずさ しゅうへい
上総 周平 国土交通省近畿地方整備局長

かも みどり
加茂 みどり 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所主任研究員

こじま ふ さ え
小島 富佐江 NPO法人京町家再生研究会理事・事務局長

たにぐち ともひろ
谷口 知弘 中京区基本計画策定委員会座長，同志社大学大学院総合政策科学研究科教授

つかぐち ひろし
◎塚口 博司 立命館大学理工学部都市システム工学科教授

ど い つとむ
土井 勉 右京区基本計画策定委員会座長，神戸国際大学経済学部都市環境・観光学科教授

とがし ひとみ
富樫 ひとみ 公募委員

みつもと だいすけ
光本 大助 公募委員

以上9名
(50音順，敬称略)

◎…部会長

1 開会

2 部会長あいさつ

塚口部会長

第1回総会でまちづくり部会長を仰せつかったので、精一杯務めさせていただく。

私たちの周りの色々な社会状況は不確実な状況に置かれている。その中で、市が行政を日々行っていくためには、一般論で言う以上に計画が重要である。従って京都市基本計画を作成するという任務は重要であり、その中でもまちづくりは市民の目に見えるところであるため、気を引き締めて当たらなければならない。部会の円滑な運営に皆様方の御協力をお願いする。

3 議事

(1) 副部会長の指名

塚口部会長

最初に副部会長の指名をさせていただく。副部会長は、融合委員会の委員になっていただくとともに、部会長が欠席の場合の議事の進行をお願いする。審議会条例施行規則第1条第2項で部会長が副部会長を指名することとなっているので、私から指名させていただく。

副部会長は、上村委員にお願いしたい。本日は御欠席であるが、御本人には内諾を得ているのでよろしくお願いする。

(2) 共汗部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について

塚口部会長

それでは、次第に基づき、部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について、事務局から説明をお願いする。

事務局から以下の資料を説明

- ・資料1 審議会の全体構成と共汗部会の役割について
- ・資料2 次期京都市基本計画の構成について
- ・資料3 分野別方針記載項目（案）
- ・資料3別紙 政策-施策の仮体系（案）
- ・資料4 共汗部会の運営について（案）＜まちづくり部会＞

(3) 意見交換

塚口部会長

第1回目のため、最初の発言の折には、御自身の自己紹介も兼ねて、こういう形で取り組んでいきたいといったことや資料に対する質問など、全委員の方から御発言いただき、その後追加で御意見をいただきたいと考えている。

したがって1巡目は自己紹介を兼ねた御発言とさせていただきたい。

大島委員

基本計画は10年後を見通すということだが、過去10年を考えてみても本当に思いがけないようなスピードというか、非常に目まぐるしい変化をしており、今後10年間の推測はつきにくいと感じている。ただ、実感としては、これまでの10年間の経緯を見ても、今後は協働型の取組が進むと感じている。私自身 NPO として市役所等と協働

させていただいているが、役割分担、責任がケースバイケース又は事後的に設定されており、これからはその辺りのシステム、制度、整備がいつそう進んでいくと感じている。

具体的な事例としては、楽洛まちぶら会でインターンシップを受け入れており、昨日ゼスト御池でゼスト活性化のための発表会をした。その中で、京都で学んだ学生は、せっかく京都で学んでいるのだからイベントだけではなくて、何か自分の学んだことを生かせるような形で何か関わりたい、あるいはそこで自己実現をしたい、あるいは京都にいる思い出づくりをしたいというニーズを持っている人が多いと感じている。かつ、実証中取組で結果は出ていないが、NPO が公共空間を活用することで市民空間に変えていくことに実験的に取り組んでいるが、これも今後進むと思う。それとともに、NPO の自己満足的に取組をするのではなく、社会的役割を認知していただけるような取組を発信・実践する努力が必要と感じている。

以上の実感を含め都市インフラの整備だけでなく、運用に市民が関わる方向に進めたらと思う。運用については、市民生活を所管するうるおい部会の検討事項になると思うので、他部会とも連携できればと思う。

上総委員

私事で恐縮だが、京都で学生時代を過ごし、大変親しみを感じている。いいまちだと思っている。

今回の審議会の中で、まちづくり部会は、都市づくり、景観、都市基盤、住宅、交通と地方整備局が対象としている分野である。とは言うものの、まちづくりそのものは京都市が中心であり、地方整備局は各都市のまちづくりのお手伝いをさせていただくという立場である。京都の場合、歴史、文化に優れたまちという特色が生かせればと思う。

資料について、計画を作った後の実施、チェック、PDCAサイクルをこの計画でどう位置付けるのかを御説明いただけるとありがたい。

また、まちづくりには環境も観光も考えていく必要があり、部会ごとに相当関連する部分があるので、融合委員会をどう運営されていくのか教えていただきたい。

塚口部会長

重要な点についての質問のため、事務局からお答えいただきたい。

事務局（京都創生推進部長）

計画策定後のチェック体制、点検・評価体制をどうするかということについての質問だが、基本計画の推進体制等については、次期基本計画の一つの項目として盛り込んでいきたい。その内容は、行政経営の大綱として、活性化部会で御審議いただくことを予定している。また、これまでに基本計画の在り方等を御検討いただく未来の京都創造研究会を設置し、8月に報告書を御提出いただいた。この報告書の中で、評価結果を活用できるような行政評価システムの見直しや点検委員会をもっと定期的に開催し、達成状況をチェックすること、達成状況や社会状況に応じて注力すべき取組を柔軟に変更するなど、進化する取組を盛り込んでどうかとの提言をいただいている。当然ながら審議会でも御審議いただき、決定していきたい。

融合委員会については、未来像と重点戦略を御検討いただく。まず、未来像とは、都市経営の理念に基づき、京都の未来はこうあってほしいという京都がなりたい姿を表すものである。そして重点戦略とは、未来像を実現するために特に優先すべき横断的な取組である。分野別方針の中でも御議論いただくが、融合委員会では、部会の中に収まりきらない、分野横断的な検討や調整を行っていただく。

加茂委員

住宅、住環境を専門としており、大阪ガスが建設した実験住宅ネクスト21で研究している。主に少子高齢化、地球温暖化に対し、どういう住宅、住環境であるべきかということを中心に研究している。

住民という立場では中京区のマンションに住んでいる。そこでは住民活動の一環として小島委員とともに明倫学区のまちづくりを考える活動をしているが、マンションと地域が関わりにくいことが大きな課題と感じている。共同の地域コミュニティを作ることがテーマに活動する中で、町内会の行政的な位置付けがあいまいだということを常日頃と感じる。町内会は、行政の末端機関ではなく加入していない人もいるが、一方で行政からのお金が入りてきてないわけではない。町内会を何らかの形で位置付けることで市民と行政の関わりにつなげられるのではないかと。京都は元々市民の自治意識が高いところである。

小島委員

町家の再生をテーマに活動している。今回、審議会に入れていただいて感じたことはあまりにも膨大なものがありすぎてどうまとめていくのだろうということである。

大きなテーマになると思うが、最近感じていることとして、町家の再生に取り組む中で、京都市というまちがどういう方向性を持っていくのか、明確な位置付けが一般市民に見えてこないことが挙げられる。最近やっと町家が市民権を得たが、これをどうしていくのかを明確に打ち出していない。歴史性を生かしていくまちづくりをするのか、それとも防災・安全を優先するのかでは全く考え方が変わる。安心・安全と文化がどこで重なるのかがいまだに見つかっておらず、安全を優先し、町家を無くしていく歴史都市ともなりかねない。

単にハードだけでなく、10年間の全体的なテーマを考えたときに10年で達成できるものがどの程度あるかはわからないが、町家は毎年2%ずつ減っている。どこで歯止めをかけるかが最優先の課題になる可能性もある。町家一つとっても危機感を持って私たちが見ているものをどこまで共有してもらえるのか。他にももっと危機的なものがあると思うが、10年という長いスパンと、今すぐにでもやらなければならない緊急的なものをどう仕分けるのかが大きなテーマ設定になると思う。

谷口委員

中京区基本計画策定の座長という立場で参加している。日頃は同志社大学で地域のまちづくりに学生とともに取り組んでいる。部会の名称がまちづくり部会だが、どうも日頃まちづくりという言葉を使っているものからすると違和感がある。物理的な環境整備に重点を置く部署が多いように思うが、物理的環境に加え、社会的環境、商業、日常生活といった、人々の日々の生活をどのように実現していくのかを見据えた物理的環境整備であって欲しいと思う。中京区基本計画の議論の中でもハコモノを作ってくれ、道路を作ってくれという意見はほとんどなく、地域で様々な社会問題があるが、その解決のために何ができるのかという意見が出ている。そういう市民の声にこたえる環境整備、制度設計であってほしい。そう考えると、一例としては、地下鉄を整備して莫大な借金を抱えていていいのか、PDCAのサイクルで評価することなく進んでいるような感もある。

これから10年を見据えると、都市基盤整備については、ある程度整備されたものとともに、町家のようなこれまで価値を見出されていなかった地域資源をどう市民、行政が活用していくのかという視点を持って議論したい。

土井委員

右京区の基本計画の策定委員会の座長として参加させていただいている。私はずっと右京区在住であり、2年前には自治会組織率98%、高齢者の多い所で自治会長をさせていただき、自治会を作ること、続けることの大変さを学ばせていただいた。また、10年前の右京区基本計画の策定にも参加した。その中で、「まちづくり」という言葉はストライクゾーンが広すぎるので、「まちづくり」の定義をし、地域の人たちが参加して、物理的環境と社会的環境について議論して作りあげていき、その改善を続けていくことが大事だと書いた。そのためには、集まれる場を継続的に作らなければならないということも書いた。自発的なものをできるだけ期待したほうがいいと思うが、それだけでは難しいこともあるので、そういう場づくりも基本計画のアウトプットの一つにしてはどうか。

もう一つ、富山のライトレール等や自転車問題をどうするかにも関わった経験から、交通計画は、実は交通だけに留まらず、生活と直結している。人間は植物のように一つの場所で収まらずに、必ずいろいろな人たちと出会って、コミュニケーションしないと生きていけないし、生活することもできない。あらゆる生活のシーンで交通は発生する。交通をどうアレンジしていくかということは、都市のあり方とか社会のあり方に極めて大きな関係があり、景観問題などにも非常に大きな影響があると感じている。

また、10年後をどうするかという話が出たが、ここ2、3年で状況が非常に変わっているというのは、オバマ大統領の就任、民主党政権の誕生をはじめ、皆さんが実感しているところだと思う。社会が変化する転換点に立っている中で、例えば環境について、温室効果ガスの25%削減は、自家用車、公共交通をどう扱うのかなど、非常に我々の生活に関わってくる。時代の転換点において、市民にどう生活スタイルを提示していくのか、市民の背中を押すための計画が求められている。

それと、今までの常識が変わってきている。例えば、世界的には公共交通の収支について、黒字だったらよくやっている、赤字だと経営がダメなのではないかというのは一つの見方だが、これで全てを判断するのはよくない。赤字、黒字の収支だけで判断するのではなく、市民の足を確保し、どう便益を拡大していくのかを考えていくことが必要である。そのためには国自身の枠組みや一般市民の常識を変えていく必要がある、交通局だけに改善してくださいというのはとても難しい。このように変えて欲しいと京都市が発言することは大阪市などの他都市が発言するよりインパクトがある。この基本計画の中で、国や社会に訴えるといった意見を出していくことも大事である。

3つ目として、時代が変わるということは価値観も大きく変わるので、もはや「あれも、これもいろいろなこと」をやろうという時代ではなく、社会的制約の中で、私たちが「あれか、これか」を選んでいかなければならない時代であり、どうしてこれを選んでくかということに関して、私たち自身の価値観が問われている。是非、あれか、これかという話を議論できるような部会であればいい。

富樫委員

京都に生まれ育ち、京都のまちが大好きで誇りを持っている。これからも魅力ある京都であってほしいと思い参加した。京都は学問のまちとして頭脳が流入してきており、その頭脳を最先端の技術、学問というところで産業に結びつけられるまちで、伝統を保持しつつ最先端のまちというような未来像を抱きながら参加した。また、頭脳が流入するだけでなく、京都自身で人を育てる、優秀な人材を育てていく、住みやすいまち、伝統を守りながらも生き生きと活力が流入できる、産業を呼び込めるようなまちであってほしいと思う。

光本委員

光本瓦店を親の代から営んでおり、所属しているのは、瓦組合、古代文化の会、京町家の関係など活動している。夜は同志社大学の大学院に通っており、谷口先生のゼミ生でもある。仕事で京都の隅々まで狭い道を２トン車で走っているが、行き詰まった感じは体で感じている。他都市に比べ、京都は狭い道に小さな家があり、震災が起こると大きな被害が出る。注文を受けて瓦を直す中で、地震が起こったら危ないので、別のところに引っ越すことを勧めてしまうような家もある。逃げ場がない状況に対して、もう少し工夫が必要である。

また、先日、都市居住推進研究会に関するパンフレットをいただいたが、その中の副市長の講演の記事があり、非常にわかりやすかった。今回もわかりやすい資料にしていただければと思う。委員になってから区役所等のパンフレット等に目を通すようになったが、わかりやすい資料があればいただきたい。

塚口部会長

この基本計画を策定する基本方針の一つとして、市民にわかりやすい、そして職員の皆さんもわかりやすいという、両方を満足するのは難しいが、わかりやすい資料にすることは、こういった場面でも必要なことで、光本委員の御指摘されたことを十分考え、事務局は資料を作成して欲しい。

それでは、一通り御発言をいただいたわけだが、更にこういうことを自分としては問題に思っているが、他の皆さんはどのようにお考えですかなど、投げかけもしていただきながら、私たちの頭の中をできるだけ共通に議論できるものにしていきたい。

それでは、私のほうから一つ、議論の進め方について、資料３及び資料３－別紙を御覧いただきたい。資料３－別紙では、４つの部会で議論していくということが書いてあるが、政策を縦方向に並べて議論するというのでは、部会の関係が分かりにくい。融合委員会で各部会の関連を明確にするということだが、まちづくり部会と他の３部会との関係を議論するうえで便利なように縦軸、横軸のマトリックス風にしていただきたい。考えればわかることではあるが、短時間でまちづくりを議論するうえで、他の３部会のどの部分と関連があるのかが１枚ものにまとまっていれば、他の部会のどこで議論するのかが分かりやすい。事務局でこの１枚ものではなくて、この１枚ものをもう少しかみ砕いた形で作成していただきたい。

それからこの資料の裏面について、第２回以降、個別政策、施策の議論が始まるわけだが、政策の中で交通を例にすると、交通局の姿が色濃く出ており、政策のくくりが分かりにくい。市民だけでなく、職員にもわかりやすいということも理解できるが、交通＝交通局ということとなってしまうっており、表現について整理が必要だと感じた。

大島委員

毎回の議論の仕方とアウトプットイメージについて、前回の基本計画を見ても無限にページがあるだけでなく、すべてを網羅するのは難しい。それぞれ委員は先進の領域を持っているが、浅く広く議論するというよりは、それぞれの領域で最先端の意見を入れながら作成していくことが可能なのか。あるいは網羅する必要があるのか。

また、今後の議論の進め方について、事前に事務局試案を送っていただいて意見交換をするのか、あるいはこれを言うと皆様に怒られるかもしれないが、皆様にそれぞれの得意とされている領域を事前に申請していただき、それを基に事務局で草案をつくり議論した方が、皆様の参画で作り上げたといえるのではないかと。

事務局（京都創生推進部長）

基本計画が市政全般の計画であり、網羅的にお願いしたいと考えている。広い分野をきっちりと議論できるのかという懸念については、できる限り皆様の御意見を全般にわたって引き出す形で資料を用意したい。

今後の資料の作り方については、部会での御議論、部会長の御指示に従うが、事務局として考えているのは、資料は事務局が作成するが、結論を示すのではなく、現時点での状況、課題を御覧いただき、方向性については、委員の皆様からお示しいただきたいと考えている。

小島委員

あまりにも漠然としており、何か共通の概念、例えば環境や歴史的都市といったキーワードが必要ではないか。ある程度全員が具体的なイメージを統一させないと、あれもこれも全部、もちろん入れる必要はあるのかもしれませんが、前と同じ繰り返しになりかねない。この10年で何をするのかを決めるには、テーマを決めないととりとめがないものになる。

土井委員

3点についてお話したい。まず1点目、空間的なことについて、右京区で言うと都心的エリアと過疎的エリアを抱えている。少なくとも中山間地域についても話をしておかなければならないと思う。

2点目に項目の羅列について、目指すべきまちを作るに当たり、どう戦略的に考えるのかを明示しなければならない。富山市は人口40万人の小さなまちで、都市そのものが過疎的と言えるが、車を利用できない3割の市民や道路の維持コスト等の観点からコンパクトなまちづくりに取り組んでいる。目指すべきゴールについて、都市の在り方からこういうものが望ましいということについて1回は議論しておくべきである。

3点目については、都市基盤の中に道路、街路、高速道路の整備維持、第4回では公共交通を含むまちづくりという話が出てくるが、分けて話をするのは極めて難しい。おそらく公共交通、自転車、車の優先順位付けといった総合交通政策をどう作るのかということだと思うが、相互に関連するものであり、むしろ総合交通戦略をどう議論するのかに特化した方が分かりやすいだろう。

塚口部会長

何をベースに議論するのか、つまり京都全体をどうするのかを議論するには時間が足りないため、先行して行われている基本的な議論を事務局で一度整理してもらいたい。何を前提として出発するのかを事務局からお話しいただいた方がよいと思うが、お答えいただけるだろうか。環境か歴史かということはなかなか答えられないが、どういう方向に京都を持っていきたいのかについて、色々なところで議論されていると思うので、教えていただきたい。

谷口委員

議論の前提について、事務局ではないが一言申し上げる。未来の京都創造研究会の報告書の中で、「京スタイルしたはる？」という提案がされており、この中で、町家や交通などを一つのスタイルとして取り上げている。この研究会は基本計画のプロセスや大きな方向性を検討したものと聞いているので、先に提案されている内容、方向性をたたきとして議論していったらどうか。

事務局（京都創生推進部長）

創造研究会の報告書は御発言いただいたとおり、基本計画の議論の一つの素材としてとりまとめたものであり、一つの素材として御議論いただいても結構ですし、他に御議論いただいても結構である。先行する議論等については、今後お示ししたい。

加茂委員

まちづくり部会の議論項目（資料3－別紙裏面）について、目的と手段が混在した書き方になっており、レベルが合っていない。例えば都市計画の推進というのは誰も反対はなさらない「それはそうでしょう」という話になり、住宅のところでも京都らしいすまい・まちづくりの実現、誰もが安心して暮らせるすまい・まちづくりの実現というのも、「それはそうでしょう」と誰も反対しないと思う。ところが消防のところを見ると、救急体制の充実となっており、何かレベルが合っていない。先ほど土井委員さんがいわれたのもそういうことだろうなと思うが、例えば市民の足をどう考えるのかという目的的な施策もあるだろうし、そのために維持・整備をするという手段的な施策もあるだろうと思う。これらの施策は、ある考え方に基づいてヒエラルキーをとるような状態に表現し直すことは可能だと思う。そのときに総合的な考え方がいったいどういう考え方であって、どのようにマトリックスのなかに位置づけるのかということになるのではないかと思う。要するにこの施策を自分の頭のなかにマッピングしていきたいわけである。マッピングの拠り所となる軸がないとそれは難しいことになる。その軸をここで議論するのか、今までの流れを汲むのかを教えていただきたい。

政策企画室長

分野別方針について、4つの部会で御議論いただくため、御指摘のとおり、ある意味縦割りの形で整理したものをお示ししている。他の部会でも、縦割りのものを議論する際も他の部会との関連、相乗効果を含めて議論したいとの御意見をいただいている。当然まちづくり部会は、市民生活等について、広く関わってくるものであり、その点についても御議論いただきたい。

また、分野別方針について議論するに当たり、そのベースが不明確との御指摘については、未来の京都創造研究会から一つの提案として4つの未来像と重点戦略をお示しいただいている。これを一つの手掛かりとするとともに、未来像と重点戦略については、第1回融合委員会において、融合委員会メンバーだけでなく他の委員の方にも御参画いただき、議論いただくこととしている。この結果についても次回の部会にお示しし、これらも踏まえて御議論いただければと思う。

塚口部会長

加茂委員から施策のレベルが異なっているとの指摘があったが、事務局へのお願いとして、上位の目的に近いものと手段に近いものがある。あるレベルでは目的であるものが、あるレベルで手段として混じることはやむを得ないが、融合委員会等の議論を踏まえ、施策を羅列するのではなく、ヒエラルキーを付ける形で整理していただければ、我々もどこを重要視して議論すればよいのか分かるので、お願いしたい。

上総委員

皆様の御指摘どおり、このペーパーを整理するべきである。

また、検討に当たっては、時間軸を考慮するべきである。これから10年で変えられることはそう大きくないかもしれないが、中長期的に考えた上での10年、もう少し言

うと、3、4年後にどうなっていくのかということを考えなければ、夢を述べただけになってしまう。

塚口部会長

今後の見直しまで含めて考えるべきということだろうか。

上総委員

P D C Aサイクルということも一つだが、計画を作るにあたっても時間軸を考慮するべきという指摘である。

塚口部会長

事務局では、10年間を時間軸上で整理するという事は考えているのか。

事務局（京都創生推進部長）

基本計画は10年の期間で考えているが、基本計画の実現にはそれより短い期間の実施計画を定めたいと考えている。上総委員御指摘のとおり、10年間より長期的な課題を基本計画に落とし、更に短い実施計画で実現して参りたい。

土井委員

計画の中に時間軸を入れることにより、いつ誰が何をすることということが明確になってくる。お金と時間と人の使い方について、折々で議論していくべきである。

小島委員

参考資料として、前回基本計画の指標の達成状況が示されており、計画の章立てを安らぎ、華やぎとしているが、今回の基本計画の章立ては、うるおい、活性化という形になるのか。

塚口部会長

この資料の内容も含めて御説明いただきたい。

事務局（京都創生推進部長）

参考資料については、現行基本計画に掲げた40指標の達成状況を示したものである。御覧いただいたとおり、すでに達成したものもあれば、達成が困難なものもある。この達成状況を踏まえて、次期基本計画における議論の材料の一つにしていきたい。

また、現行計画では、基本構想を踏まえた章立てとしているが、次期基本計画の章立てについては、今の段階では具体的に決まっていない。事務局として、次期基本計画の章立てをこのように考えているというものではない。ただ、こういう分け方をして、市政の各分野におきましてそれぞれの方向性を出していただければ市政全般について網羅できるかと考えており、議論するときにこういうまとまりで議論することはあり得るかと思う。

谷口委員

全体の枠組みが明確でないところで、部分の話で恐縮だが、中京区の議論の中では、交通、地域交流の促進、にぎわいという3つの部会を設置している。その中で、自分たちの町内の道をどう活用するのかという議論がある。課題としては通過交通の流入があ

るが、例えば昔は地域で町内の道を通行止めにして映画会やフォークダンスなどをしていたという意見があった。最近、町内の自治意識を高めるため、また価値観の変化もあり、道を活用したイベントをしたいという意見が出るが、警察が市民活動を支援する方向に向いていないと感じる。警察との横の連携をどう議論に盛り込んでいくのか。個別の事業となるが、関係機関として京都府警が入っていないので、事務局で御検討いただきたい。

富樫委員

また各論になるが、うるおい部会で地球温暖化として御検討されるのかもしれないが、夏に熱帯夜が非常に長く続くという年が続いている。まちづくりの部分でくらしの水、都市基盤、道路づくりにも関わってくると思うので、夏の気温をすごしやすいようなハード整備についても考えていただきたい。

塚口部会長

時間も近づいてきたので、取りまとめさせていただきます。

まず、このまちづくり部会において議論するに当たっては、基本構想に準拠することは言うまでもないが、このまちづくり部会において議論するに当たって、京都市がどういう都市像を目指すのか、もう少し具体的などころでどういう方向へ進むのかがやや不鮮明である。未来の京都創造研究会の提案も一つの資料であって、融合委員会で進むべき方向を確認するという形であるので、その結果を受け、もう一度短時間になると思うが、この場で議論したい。それで委員の皆様の考え方をできるだけ共有したい。

次に、個別の意見としていくつか頂いている。まず、インフラ関係については、整備だけでなく市民参加による運用や運営についても考えるべきといった指摘があった。それから、部会ごとの議論は、融合委員会で議論するとともに、活性化部会においても計画策定後の進め方、計画進化の仕組みを議論していただけたということだった。

次に、町家の活かし方については、市の方針が見えにくいため、第3回部会で十分に議論したい。

更に、元々まちづくりという概念はあいまいなものだが、まちづくり部会という名称を付けた以上、事務局がどこまでを部会の範囲と考えているのかを次回教えていただきたい。これには正解はないと思う。ただ、この部会においては、どのあたりまで考えるのだということを、他部会との関係も考えながら次回御説明いただきたい。

資料3－別紙に関しては、項目の羅列に見受けられるので、議論するに当たり、どこを議論しているのかがわかりやすい形にブラッシュアップしていただきたい。

集中と選択の議論として、網羅的なのか重点的にするのかという点については、基本計画として抜け落ちがあってもいけないと思うので、やはり網羅的にならざるを得ないが、こういう方向にもっていきたいという方針が明らかになれば、若干重点を置くところ、詳しく議論するところがあってもいいかと思うので、事務局の網羅的ということは結構だと思うが、あくまで抜け落ちのないように、強調すべきところがあってもいいと思う。

それから審議会や委員会の常であるが、委員自らがそれぞれの原稿を書ければよいのだが、時間もない中、また書き方をそろえるためにも、事務局御提案のとおり、たたき台は事務局にお示しいただくこととなると思う。ただし、結論は書かないでもらいたい。結論を書くとかこういった部会の存在意義がない。ただ、こういうことを考えているという意思はお示しいただいても結構だが、最後の判断はこの場で、市の関係の方々の御意見も当然反映されるわけだからそこでまとめさせていただきます。

非常に雑駁で抜け落ちがたくさんあるまとめであるが、おおよそこのような方向で次回以降、3回予定されているがよろしくお願いしたい。

次回以降の部会を、資料に示している形で進めるということだが、土井委員の御指摘のとおり交通は、こういう切り口でやるとよくないと思うので、融合させたような御提案をいただければと思う。

事務局から何か連絡があればお願いします。

事務局から、次回部会の日程調整表の提出依頼及び第1回融合委員会出席者への説明について連絡。

4 閉会